

### 環境調査結果のお知らせ

令和6年6月3日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

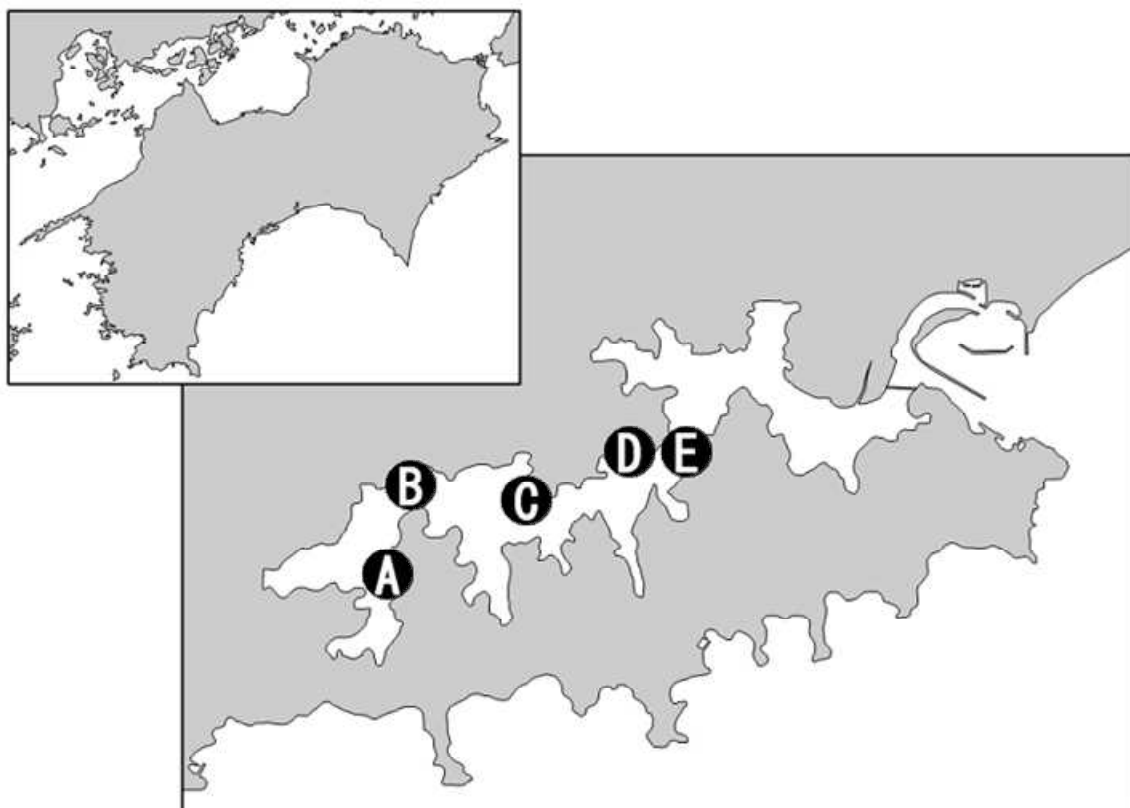
#### 概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で1,000 cells/mL、ディクチオカ属が236 cells/mL、ケラチウム属が最高で660 cells/mL確認されました。シャットネラ属は漁業被害が想定される密度を超えているので、十分注意してください。現在、光松及び大鹿漁場で発生している赤潮（着色）はケラチウム属が原因と考えられます。ケラチウム属は、高密度になると養殖魚の餌食いを悪化させるおそれがあります。また、麻痺性貝毒原因種であるアレキサンドリウム属が最高で19 cells/mL確認されました。アレキサンドリウム属は、貝類（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので、十分注意してください。

すべての定点において、10m及び底層が貧酸素状態となっています。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

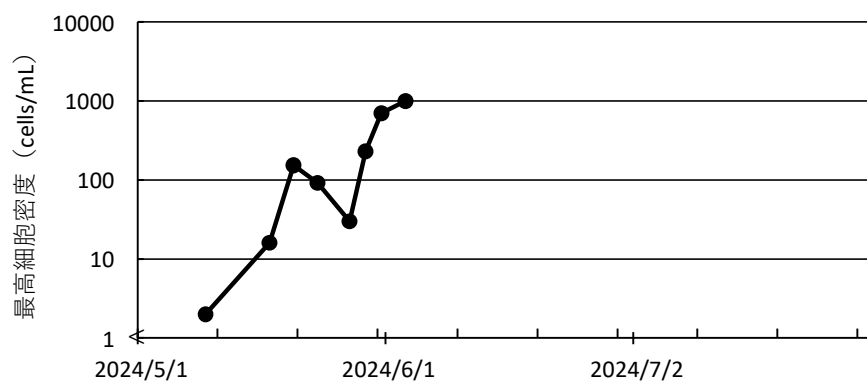
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ	ディクチオカ	ケラチウム	アレキサンドリウム
	(m)	(°C)		(mg/L)	属	属	属	属
A 鳴無 (2.6m) 【10:12】	0	23.8	20.5	12.0	1	0	1	0
	2	24.4	27.1	15.6	15	1	4	0
	5	22.9	29.5	5.4	1,000	47	0	0
	底層 7.5	22.3	30.4	2.9	380	109	0	0
B 中学校前 (3.5m) 【10:24】	0	24.4	22.0	11.4	0	0	0	0
	2	23.8	27.0	14.1	0	0	3	0
	5	22.6	29.2	7.6	9	30	4	0
	10	21.6	30.7	2.5	106	135	10	0
底層 11	21.3	30.8	0.9	54	140	5	0	
C 目ノクソ (3.5m) 【10:39】	0	24.2	20.4	12.1	0	0	24	0
	2	23.1	27.5	12.2	0	1	23	0
	5	22.4	29.4	6.0	24	236	79	19
	10	21.6	30.8	3.2	43	35	49	0
底層 15	20.9	31.1	0.7	4	36	11	0	
D 光松 (2.2m) 【11:01】	0	24.5	20.0	11.7	1	6	6	0
	2	23.2	27.4	14.5	0	0	660	0
	5	22.3	29.6	6.4	3	4	140	7
	10	21.6	30.9	3.1	0	8	42	2
底層 15.5	21.1	31.1	0.8	0	0	0	0	
E 大鹿 (2.5m) 【11:12】	0	24.7	21.7	13.1	0	0	213	0
	2	23.1	27.5	15.4	0	0	150	0
	5	22.3	29.6	5.7	0	0	330	7
	10	21.6	30.9	2.8	0	0	3	0
底層 15.5	21.1	31.1	0.8	0	0	0	0	



- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクソ
- D: 光松
- E: 大鹿

令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移

### シャットネラ属



有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	<b>1,000 cells/mL</b>	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	<b>100 cells/mL</b>	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	<b>100 cells/mL</b>	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	<b>50,000 cells/mL</b>	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	<b>5,000 cells/mL</b>	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	<b>10,000 cells/mL</b>	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	<b>500 cells/mL</b>	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	<b>100 cells/mL</b>	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	<b>1 cell/mL</b>	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。